

中島金融庁長官

FIN/SUM 2023 開会挨拶

2023年3月29日

おはようございます。金融庁の中島です。

本日はフィンサム（FIN/SUM）2023にご参加頂き、誠に有難うございます。あいにく鈴木大臣が、国会に出席しているため、代わりに、私から金融庁シンポジウムの開会のご挨拶を申し上げます。

昨年のこの場でも、社会全体のデジタル化が加速し、また、スタートアップ企業をはじめ、様々なプレイヤーによって多様な金融商品・サービスの提供が進んでいることについて議論が行われました。あれから1年、想像を超えるペースでデジタル化が進展しています。

その一つが、Web3.0（ウェブスリー）です。ブロックチェーンの特性を生かし、NFTや暗号資産、ステーブルコインなどの活用を通じて、従来の中央集権的な経済社会とは異なる形で「価値」「金融」「組織」などを提供する試みが行われています。

また、最近では対話型AIの実用化がはじまり、その可能性やビジネスや社会に与える影響に、世界の注目が集まっています。

一方で、今月上旬の米国シリコンバレー銀行の破綻については、SNSやインターネットバンキングの利用が、信用不安の拡大や預金流出を加速させたとの指摘があります。金融庁では、その後の内外の経済・金融市場の動向や金融システムに与える影響

等について、強い警戒心を持って注視しています。

さて、Web3.0 については、昨年6月に閣議決定された「骨太方針2022」に掲げられて以降、金融庁としても金融面から様々な取組みを行ってきました。

昨年11月、大手暗号資産取引所FTXが破綻しました。これは、暗号資産業界の信頼を揺るがせるものであり、利用者保護のための規制の重要性を改めて浮き彫りにしています。

多くの法域では、暗号資産の規制は発展途上にあり、国際的にも規制枠組みの強化に多くの関心が集まっていますが、日本では厳格な利用者財産の分別管理などの規制が既に導入されました。FTX Japan社の利用者の財産は全額保全され、返還が始まっています。

現在、「クリプトの冬」とも呼ばれる厳しい状況にあり、今後の動向を予想することは困難ですが、日本では、健全な規制によりWeb3.0のイノベーションに挑戦できる環境は整っていると思います。

また、この1年で、決済や送金、資本市場といった領域において、多くの革新的な変化が起こっています。

世界と比較して日本のフィンテックの取組みは遅れているとの声も聞きますが、必ずしもそうではないと思います。例えば、

スマートフォンを使ったキャッシュレス決済や家計簿アプリは、多くの人にとって身近なものになっています。

決済・送金については、昨年10月、全銀システムへの参加資格が資金移動業者に拡大されました。これにより、資金移動業者が全銀システムに参加した場合には、金融機関との間での相互送金も可能となります。

また、大手行や地方銀行等の連携によるスマートフォンを通じた個人間の少額送金サービス「ことら」が始まりました。

さらに、来月には、厚生労働省において資金移動業者を通じた給与支払い制度が開始される予定です。

これらのインフラ・制度面での進展に加え、スマートフォンアプリを通じて、決済などの金融サービスが非金融サービスと一体化した、いわゆる「埋め込み型金融」の提供や、「メタバース」のような新たな顧客接点の創出など、事業者の創意工夫によって、顧客にとって利便性の高い金融サービスが拡大しつつあります。

加えて、不動産や社債といった伝統的資産のトークン化は、小口化によって小額投資を可能とするなど、証券市場に新たなフロンティアを提供しつつあります。

その一方で、日本のフィンテック事業者のグローバル展開は未だ発展途上にあると感じています。海外の先進的な事業者と、国内のプレイヤーが連携し、グローバルに革新的なサービスが展開されることを期待しています。

このような問題意識から、今年の^{フィン・サム}FIN/SUMには、これまで以上に多くの海外ゲストの皆様をご招待しました。今後も^{フィン・サム}FIN/SUMを更に発展させ、国内外のステークホルダーの交流の場として大きな役割を果たしていきたいと考えています。

縷々ご紹介いたしましたでしたが、これらの取組は、本日のシンポジウムのテーマである「Empowering people with responsible innovation (エンパワリング・ピープル・ウィズ・レスポンシブル・イノベーション)」、即ち、「健全なイノベーションで人々の経済活動を豊かにすること」であり、これは岸田政権が掲げる「人への投資」にも繋がると考えます。金融庁としては、こうしたイノベーションに向けた皆様の取組みを、強力にサポートしていくことをお約束します。

最後になりますが、ご登壇される方々に御礼を申し上げるとともに、共催者として、本カンファレンスの開催にご尽力いただいた日本経済新聞社にも、この場を借りて感謝を申し上げます。

本日の議論が実り多きものとなることを祈念して、開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(以 上)